

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、定時に事務所に掲げている「なごみ基本理念」を当日の勤務職員で齋唱して新たな気持ちで利用者の方と関わられるように一日の始まりとしています。	理念を思い感じながら、毎朝全員で唱和している。その際、気づきや連絡事項の確認も行っている。日々気持ちを新たに、理念に沿った介護支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々も散歩に出かけた時、登下校の子供たちも気軽に声をかけて下さったり、地域行事の案内があれば、出来るだけ参加させて頂いています。(たとえば、溝掃除、友愛セール参加、小、中学校PTA主催資源回収事業協力、里西小、かすみ保育園との交流etc)	散歩コースの途中で近隣の方と立ち止まって会話したり、小学校の登下校時の生徒に声かけたり、また、地域のお祭りや町内の行事に参加することで、地域と深い関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修会に参加しながら認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた事項を検討し、次回開催までに報告できるように話し合いを行い、サービス向上に努めている。	家族や民生委員、里庄町役場、里庄町駅前分館長等の参加により、活発な意見交換が行われている。役場の方から、研修や勉強会の案内もある。貴重な意見や案内等は、サービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会や研修手続きなどで町行政担当者へ連絡情報収集や指導を仰いでいる。	介護保険の更新時には直接市へ出向き、情報収集している。また、ホーム内での困難な事例について、相談に乗ってもらうこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声を掛けたり、一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。又、落ち着かない入居者の北区願望が激しい時には、身体拘束をせずに家族に説明して一時的に一部施錠を行い、事故発生につながらないよう措置をすることがある。その場合も玄関は開放している。	玄関は日中開放しているが、徘徊防止のため閉めることもある。また、転倒防止対策としての検知マットや夜間のベッド柵を設置する場合は、家族に了解を得て設置するようにしている。また、身体拘束について毎月1回、研修を行っている。外部研修への参加も積極的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の方が不穏状態になったりすると介護する側もストレスや疲労感が増し、ケアに影響がないようにお互いにケアを見つめ合い、申し送り時やカンファレンスの時に話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して得た知識を職場に持ち帰り、カンファレンスの後に時間を作り、勉強会を開いている。必要な時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制についても詳しく説明を行い、同意を得るようにしている。又、利用者様の不安やご家族の疑問にも丁寧な説明を行い、理解と納得の上契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃の会話の中で、ご家族には、面会時や電話であったり、機会をとらえ、職員全員が気軽に問いかけ、何でも言ってもらえる様に雰囲気作りを行っている。意見や要望はミーティングで話し合い、反映させている。	意見や要望については、随時、家族から話を伺っている。直接、利用者から意見等を聞いたり、本人自ら思いや要望等を話してくれる場合は、直接対応している。帰宅願望等、入居者の思いや意見は定期的に傾聴し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者はスタッフの要望・意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情を把握しきれていない可能性もあるので、日頃から、コミュニケーションを図るように努め、スタッフの気づきやアイデアを運営に取り入れたいしている。	代表者や管理者は、その都度、職員と会話を通じて意見や要望、現状の把握に努め、運営に反映させている。また、カンファレンスや各ユニットの連絡帳を利用して、意見や提案を聞き入れながら、運営に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻りに現場に来て様子を見たり、リーダー会議から現場の就業環境の把握をしており、スタッフ各自のやりがいなど向上心を持って働けるよう、職員の資格取得に向けた支援や、健康管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宇根本会全体のレベルアップのため、宇根本会でテーマを決めて勉強会を開催しているので、スタッフに可能な範囲で参加してもらっている。外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるようにしている。それぞれの研修内容をまとめ、閲覧できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やスタッフは地域の交流会に参加してサービスの質の向上に役立っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、可能な限り、本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるように話しかけ、心身の状態や苦しんでいること、悩みなどしっかり受け止め、利用者を受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労やサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。ご家族にとって納得できるものか具体的に説明しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者やご家族の思い、困っていることなどにじっくり耳を傾け、対応出来る事、できないことなど良く話し合い、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「なごみ基本理念」に掲げているように利用者は人生の先輩であり、教えてもらう場面が多い、そういった場面が多くもてるようにセッティングや工夫を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに面会に来られたときにお伝えしたり、電話連絡したり、関係が途切れないように留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望されたら、御家族に相談して馴染みの美容院へ出かけたり、家族とお墓参りに出かけられるよう支援している。又、今までのそれぞれの生活習慣を尊重し、友人、知人、親戚の方などの訪問もあるので続けて交流が持てるよう支援している。	本人の希望により、行きつけのラーメン屋さんや散髪屋さんに出かけたり、お孫さんの結婚式に参加したり、友人や地域の方も交えてホーム内でレクリエーションを行いながら、馴染みの人や大切な人との関係継続支援に努めている。また、日頃の生活状況を家族に説明(アプローチ)し、なるべく外出できる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やおやつの時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動(おしぼり、洗濯物たたみ)などを通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方の家族の方が時々顔を出して下さることがあり、家族からの相談にのったり、継続的に付き合いが出来るよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。又、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、さりげなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	入居者それぞれの思いや意向を把握するために、日常生活の中での行動や態度、目線等に注意し、問いかけながら、具体的に行動している。また、身体的苦痛等は見逃さないよう、職員が感じ取る様になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人への理解につながるのので、本人やご家族や関係者の力を借りながら行っている。それを、職員間で共有し、利用者との関係作りに役立たせてもらっている。プライバシーに配慮しながら、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の生活リズムを間接すると共にスタッフ全員で確認し、日勤帯、夜勤帯で記録をして朝8:45と夕17:00に申し送りしている。又、スタッフ間の情報の共有として大事なことを連絡帳に記入し、随時見るようにしており、読んだらサインするようにしている。又、主治医の往診時には利用者の容態を報告し指示を仰ぐようにしている。18:00、21:00には利用者の様子を理事長に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	各担当者からケアの現状や気づき、意見等を聞き入れながら、また、アイデアを出し合いながら、カンファレンスを通じて話し合い、原案を基にプランを作成している。主治医や家族の意見や要望も踏まえたプランとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の一日の様子が一覧できる記録用紙に排泄時間の記録を記し、失禁状態にならないように支援している。食事・排泄・服薬・入浴・バイタルなど身体状況を含め、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなど記録して、全ての職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じて、急な外出、散髪、外泊要望を軸に臨機応変に対応している。入居者の状態やご家族の意向に配慮しながら、ご家族の方へ食事の提供などお声かけしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくためにボランティアの情報・協力、又、レクリエーション用品の貸し出しなど地域にある資源を利用させてもらったり、相談に乗ってもらっている。運営推進会議に町行政担当者、民生委員、地域の役員の方など、参加され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、御家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診察に来てもらうなど複数の医療機関と関係を密に結んでいる。主治医とは定時の連絡、急変時には24時間対応の連携が出来る。	24時間体制で母体と連携しており、緊急時の対応や連絡体制も整っている。利用者や家族の希望により、他機関への受診援助も行っている。また、歯科往診は随時行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしている。些細な変化や気づきにも丁寧な対応で利用者や介護職員の良き相談相手となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるように情報交換をしている。入院中には、不安や混乱が内容に事業所の職員が見舞う様にし、洗濯物などご家族に代わって持ち帰って洗ったものをとどけるよう、支援している。ご家族とも回復状況など情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いが出来るように連携し、予後について利用者、ご家族に理解を得て頂き、終末期に向けての方針など利用者、ご家族にとってどうあったらよいのか、ご家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援している。	医療依存度の高い人にも対応できる体制が整えられており、希望があれば、終末までの対応も可能である。重度になった場合は、家族や主治医と相談しながら対応している。終末期における内部の勉強会が経験豊かな看護師の主導の下、行われており、職員への周知・教育も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に急変や事故発生時に備え、地域の消防署の協力を得て、救急手当や蘇生法を受講している。夜勤帯の緊急時対応について、マニュアルを作成し、周知させて実際の場面に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は三宅消火器に定期的にお願ひし、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい日頃から防災に心がけている。マニュアルを作成し、年2回、利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制についても運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回(3, 9月)、マニュアルの下、昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、災害に備え、設備点検を定期的に専門会社へお願いしている。地震対策についても内部研修を行っている。地域には参加・協力依頼の声かけはしているが、実践には至っていないようである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、援助が必要な時もまず、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	本人の意思を確認し、一呼吸おいてから何事も対応するようにしている。また、日常の言葉かけや介助には、利用者の尊厳を損なわないように利用者のペースで対応している。	日常会話において、慣れ合いになっていく場面が見受けられた。親しみのあまりの言動だと思うが、周囲の環境や状況をふまえて言葉かけを行う必要があるのではないか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい利用者には、身体介護を行う時には、「これから、・・・します。いいですか？」など説明してから、表情から読み取ったり、意思を確認した上で支援に移行するようにしている。些細な事でも本人が決める場面を作っている。(飲みたい物、食べたい物、する、しない等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの体調に配慮しながら、利用者のペースでその日、その時の本人の気持ちを尊重しながら、出来るだけ個別性のある支援を心がけている。しかし、入浴や行事など、職員の都合で決めていることも少なくない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝う様になっている。自己決定ができにくい利用者の洋服選びなどはスタッフが決めてしまいがちな面も少なくないが声掛けをしながら本人の気持ちに沿った支援をしている。本人の馴染みの理美容院で、希望にあわせたカットやパーマをかけてもらえるよう、連携している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューや食べやすい形状など食欲がわく盛り付けなど工夫し、おいしいものを利用者のペースで食べれる環境を提供し、職員も利用者と同じテーブルを囲み食べている。時には、バイキング方式で自分の食べたいものを選んで食べてもらうこともあります。野菜の収穫期には、畑に行き、採ってきた野菜をメニューに添え、話題にして楽しい会話にもなっている。	嗜好調査票を作成し、管理栄養士のアドバイスをもらいながら、家庭菜園で採れた旬の野菜を使用した料理や、バイキング形式等、楽しくバランスのとれた食事が出来るように工夫している。また、外食の機会を作り、家族と一緒に食を楽しんでもらうプランもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調と一日の食事摂取量を把握している。全員の水分摂取量にも注意して少ない時には、補助食品や嗜好品で補ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけや見守りをし、出来ない方にはできない所を支援するなど、一人ひとりに合わせたやり方で口腔内の清潔に配慮している。利用者によっては、ガーゼやハミングットを使用する等、食べ続けることができるように口腔内のマッサージを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、尿意のない利用者にも時間を見計らいさりげない声かけや誘導で、トイレで排泄できるよう支援している。パンツ、パット類も利用者に適したものや使い心地の良い、皮膚トラブルに繋がらないものを検討している。陰部の清潔のため、排泄後陰洗や蒸しタオルでの清拭など支援している。	個々の排泄パターンを職員に周知し、排泄チェック表を利用しながら支援に取り組んでいる。排泄後のケアにも力を入れており、不快感の無い様、清潔に保つよう努めている。また、失禁が多い入居者に対しては、繰り返し言葉かけを行い、習慣付けてもらう様に工夫している。入居者には出来るだけ布パンツの着用を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便パターンを把握し、頑固な便秘にならないよう水分摂取を促し、水分補給の重要性について職員間で話合ったり、毎日のレクリエーションのとき体操したり、散歩に誘って楽しく身体を動かす機会を作っている。下剤や便を軟らかくする薬を処方されている方には、状態に合わせて服用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めずに、入居者のその日の体調や希望を確認し、入って頂いている。入浴を拒む人には、時間を空けたり、声掛けを工夫するなどしている。又、入浴が出来にくいときには、清拭、足浴等で対応しています。	2日に1回の入浴が基本であり、毎日入浴を希望する人にも対応している。入浴を拒否する人には、言葉かけに工夫を凝らし、入浴が楽しみとなるように誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、その方の生活のペースで午寝したり、寝つけない時には、暖かい飲み物を飲み、話し相手となる等配慮している。入眠導入剤や不安感を和らげる薬など眠剤服用の方は、日中の活動が妨げになっていないか確認をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼り、職員が内容を把握できるようにしている。処方の変更があった場合は連絡帳に記載し、職員全員が確認できるようにし、状態観察に努めている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認している。自力で服薬出来にくい利用者には職員が服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけて、草花を摘んで帰り、花瓶に生けたり、日常の事を俳句に詠みノートに記したり、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、おしぼり、洗濯物たたみ等お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の意向で墓参りや食事に行かれる事もあるので続けられるようお願いしている。職員が天気の良い日や体調に合わせて散歩に誘ったり、ドライブ、買い物に出かけて気分転換を図っています。	家族の協力により、外食や墓参り、外泊が行われている。また、近隣へ散歩に出かけたり、買物に出かけたりしている。天気の良い日には、職員と一緒にドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、理美容院、食事、買い物に行ったときは、財布から出して支払いをしています。又、御家族よりお金を預かり事業所で管理している人でも外出時買い物をし、欲しいものを買うようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話をしてほしいと希望されたときにはやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすく目印をドアに表示したり、日中の採光、夜間の転倒防止のために照明の確保に努め、室温、湿度にも配慮して快適な空間作りをしている。リビングはゆったりした広さがあり、ソファや家具、置物を配置し家庭と同じ雰囲気がある。キッチンからは、包丁の音や料理の匂いがし、小鳥のさえずり、テレビの音などがし、壁には写真や季節の飾りを工夫している。ホームの庭には緑のカーテンや花々が咲き、野菜作りをしている。玄関には季節の花を飾り、靴の履き替えや腰を掛けて休めるように腰掛けがある。	定期的な窓の開放と観葉植物により、リビングには爽やかな空気が流れており、皆で楽しめるレクリエーション等に利用している。また、庭に椅子を置き、外気浴や一人の時間をゆったりと楽しめるように工夫している。リビングの壁には入居者と一緒で作成した折り紙やパッチワーク等の作品を掲示し、居心地良く、季節も感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルや椅子、ソファを配し、自由に思い思いの場所で寛げるようになっている。食事時には自分の席が用意してあるので落ち着いて食事ができるし、テレビをゆっくり見たいときには、ソファに腰かけて見られ、お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口に表札を掲げ、自分の部屋を確認できるように目印にしている。出窓には、鉢植えの花や観葉植物を置いてあり、壁には、カレンダーや手作りの壁掛けが掛けてあり、疲れた時には居室に入りゆっくり休めるようになっている。庭に出ると季節の花が植えられてあり、置いてあるベンチに腰かけ、外気浴をしたり、話をして過ごせるようになっている。	居室内にあるベッドやタンスの配置は、入居者本人の希望や要望に合わせており、使いやすさを重視している。また、各居室からは庭の季節の花が観賞できる。家族には入居者の馴染みの物を持ち込んでもらう様に声かけしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりの増設、玄関のスロープ化を実施している。一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		